



# 全体会

## 開会式

開会宣言

友 広 郁 洋

(長崎県過疎地域自立促進協議会会長・松浦市長)

主催者挨拶

岡 崎 浩 巳

(総務省事務次官)

歓迎挨拶

中 村 法 道

(長崎県知事)





## 主催者挨拶

総務省事務次官

おかざき ひろみ  
岡崎 浩巳

ご紹介いただきました総務省事務次官の岡崎でございます。

実は私自身、2回にわたり通算5年間、長崎県庁に勤務をいたしたことがございます。長崎県も過疎地域あるいは離島地域がたくさんございますけれども、自分の足で随分歩いてみまして、実は非常に魅力的な地域が多いということを実感させていただいた思いがございます。その長崎で行われるこの全国過疎問題シンポジウムに参加できましたことを私自身、大変うれしく思っております。

新藤大臣から挨拶を預かっておりますので、代読をさせていただきます。



全国過疎問題シンポジウム2013 in ながさきを開催するに当たり、主催者を代表して一言御挨拶を申し上げます。

本日お集りいただいた皆様方には、日頃から過疎対策について格別の御尽力、御高配を賜り、心から御礼申し上げます。

ここ長崎県は、山の雲仙、海の西海の2つの国立公園に代表される美しい景観と豊かな自然に恵まれておりますが、全国の過疎地域にも、心安らぐ原風景の残る場所や伝統文化・風習、都会にはない本当の豊かさ、互惠・共生の心、知恵といったような魅力がございます。

一方で、過疎地域では高齢者割合が5割を超える集落が1万を超え、生活交通や地域医療の確保など様々な課題に直面しております。このような現状を踏まえて、自らの地域に自信と誇りを持ち、住民主体での集落維持・再生の取り組みを継続して行うことが重要であると認識しております。

このような地域発の取り組みを支援するため、総務省では様々な施策を講じております。

まず、過疎地域等の自立活性化を目的とした交付金により、地域住民が自ら考え、自ら集落の課題に生活圏単位で取り組む事業を推進しているところであり、今後も継続して支援して参りたいと思います。

また、地域の実情に詳しい人材が、市町村職員と連携し、集落の点検や細やかな目配りをする「集落支援員」として、全国各地でご活躍いただいております。

加えて、過疎地域での豊かな生活に魅力を感じた若者を中心に、都市住民の方々などが「地域おこし協力隊」という仕組みにより、200を超える自治体で600名以上の方々が各分野で活躍しておりまして、3年の任期終了後も多くの方々が定住されるなど、一定の成果が出てきております。

これらの支援ツールを有効に活用し、地域住民の皆様とともに、集落の維持・活性化を推進していただければと思います。

さて、今年度の全国過疎問題シンポジウムは、「過疎・離島・半島っていいね！－本物の価値、コミュニティの知恵、そして誇り－」というテーマを掲げております。

古くから日本の海外交流の窓口として、また先進文化の中継地として独自の文化を育ててこられたこの長崎の地で、過疎地域の魅力を再認識し、誇りを持って都市部へ発信すべく、本シンポジウムが有意義な機会となるものと期待しております。

最後になりますが、開催に当たりまして、多大なる御高配を賜りました地元長崎県及び長崎県過疎地域自立促進協議会をはじめとする関係者の皆様方に改めて御礼を申し上げますとともに、お集まりの皆様方の益々の御健勝、御活躍をお祈り申し上げ、私の挨拶といたします。

平成25年10月10日 総務大臣 新藤義孝 代読でございます。



## 歓迎挨拶

長崎県知事  
なかむら ほうどう  
中村 法道

皆様、こんにちは。ご紹介いただきました長崎県知事の中村法道でございます。

本日は全国過疎問題シンポジウム2013inながさきの開催にあたりまして、開催県を代表いたしまして歓迎のご挨拶を申し上げます。

全国各地から遠路ここ長崎県に、ご来賓をはじめ多くの関係皆様方にお越しいただき、心から歓迎申し上げます。また、ご出席の皆様方には、日ごろから過疎地域の振興のため、格別のご尽力とご高配を賜っておりますことに深く感謝を申し上げます。

また、後ほど、平成25年度過疎地域自立活性化優良事例表彰を受賞されます10団体の皆様方には、心からお慶びを申し上げますとともに、これまでのご熱意とご努力に対しまして深く敬意を表する次第でございます。

ご承知のとおり、長崎県は本土の一番西の端にあります。佐賀県に隣接する以外は周囲を海に囲まれております。北松浦、東松浦、島原、西彼杵の4つの半島地域と、51の法指定の離島を有し、県土の約4割を離島が占めるといふ日本有数の離島県でもあります。そのほとんどが過疎地域に指定されております。

こうした多くの離島、半島を含む本県に限らず、全国の過疎地域は、急激な人口減少と少子高齢化、農林水産業などの衰退、生活基盤の弱体化、集落消滅の危機などさまざまな課題に直面しており、大変深刻な状況にあります。

一方、こうした地域には豊かな自然や歴史・文化が受け継がれ、多様で美しいふるさとがかたちづくられております。安全・安心な食料の生産、水源の涵養、自然災害の防止などを通じて、都市活動を含めた社会全体の生活活動を支える公益的な役割も担っております。

過疎、離島、半島にはこうした価値があり、そこには必死に生活を続ける住民やコミュニティのすばらしい取り組みや知恵があります。

昨年6月、国会議員の皆様方、本日お集まりの関係各位のご尽力により、過疎地域自立促進特別措置法の期限が5年間延長され、さまざまな課題解決のための中長期的な振興対策に力を注いでいるところがありますが、そのためには、今回のシンポジウムのテーマ「過疎・離島・半島っていいね!」と、本物の価値を国民の皆様を感じ取っていただけるような取り組みも必要となってくるものと思います。

ご参加の皆様方には、本シンポジウムを一つの契機とされまして、参加者間の交流や情報交換を通じ、それぞれ積極的な過疎地域の振興に向けた取り組みに結びつけていただきますよう、ご期待を申し上げます。ご期待を申し上げます。

そしてまた、シンポジウム終了後は、お時間の許す限り、県内各地をご訪問いただき、本県の豊かな自然、特色ある歴史・文化など、その魅力をご堪能いただければ幸いに存じます。

また、本県では、離島のPRと誘客、消費促進を主な目的に、本年4月から2割のプレミアム付きのお得な商品券「しまとく通貨」を販売いたしております。明日の分科会会場の一つであります新上五島町をはじめ、壱岐、対馬、五島など本県のしまで共通して使用していただけるものです。特に新上五島町分科会に参加される皆様におかれましては、お土産品の購入などにご活用いただきますようお願いを申し上げます。

結びになりますが、本シンポジウムの開催にあたりまして、準備段階からたいへんご尽力をいただきました関係皆様方に深く敬意を表し、感謝申し上げますとともに、過疎地域の限らない発展、そしてご出席皆様方の今後ますますのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。歓迎のご挨拶とさせていただきます。

今日から2日間、どうぞよろしく願いいたします。

